

## 令和2年度 海洋スポーツセンター事業報告書

海洋スポーツセンター長 中村 夏実

### I. 主に取り組んだ事業（特記事項）

1. 公開講座を実施した。
2. 地域振興を目的に、地域海洋スポーツ関連事業に協力した。
3. 各事業において参加者数と満足度を調査し、地域ニーズを把握した。
4. セーリング競技等における競技力向上に関する練習会等の運営に協力した。
5. 協力者会議を開催し、年度を総括するとともに、海洋スポーツ研究第 26 号を発刊した。

### II. 事業報告

#### 1. 教育（授業に関するものを除く）プロジェクト

- ① 海洋スポーツ活動のための指導者育成（主担当：中村／令和3年3月実施予定→中止）  
自然体験活動指導者（NEAL リーダー）資格取得講習会の開催予定であったが、外部講師を招聘する必要があったため、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止とした。
- ② 小型船舶免許取得講習会の開催（主担当：中村・坂口）  
学生4名、教職員3名の受講があり、全員免許を取得した。
- ③ 地元小学校との合同授業（主担当：中村／令和2年度前期金曜日3・4時限目）  
本年度中の事業調整には至らなかった。新型コロナウイルス感染拡大予防の観点に加え、平成3年度から本事業の対象授業である競技スポーツ論・実習ⅡⅢが4・5時限目に配置されることとなったためである。当該合同授業については、同形式での実施展開は難しいと判断され、次年度以降、別の形態での実施が可能か検討する。

#### 2. 研究プロジェクト

- ① 生涯スポーツとしての SUP（スタンドアップパドルボード）が体力に及ぼす影響（主担当：中村・榮樂）  
海上での SUP 運動と陸上でのウォーキング中の筋活動を比較検討し、SUP 運動が上肢だけでなく、体幹や下肢の筋活動もある、全身運動であることが明らかとなった。
- ② カヌースプリント競技におけるパワーの評価方法について（主担当：中村）  
バトルロープを使用した高強度間欠トレーニングの実施が、カヤック種目 200m 競技の最大艇速および速度低下の低減に有効であることの一例が示された。
- ③ セーリング競技における選手用テキストの作成（主担当：榮樂）  
セーリング競技における選手とのミーティングや指導者が指導前に準備するための知識や考え方の参考になることを期待した、セーリング競技における指導者用テキストの作成を行ってきた。

#### 3. 社会連携・社会貢献プロジェクト

- ① 学長杯オープンヨットレースの開催（主担当：榮樂・坂口・中村）

令和2年8月30日(日)に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、中止とした。

② カノヤカップヨットレース大会協力 (主担当：榮樂・坂口)

令和2年8月29日(土)に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、中止とした。

③ 公開講座の開催

a. 楽しいマリンスポーツ (主担当：榮樂・中村・坂口)

4月中旬～5月中旬の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から中止となった。

b. 楽しいスキダイビング (初級者編) (主担当：中村・榮樂・坂口)

5月中旬から6月末の開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった。

※なお、上記2講座の代替講座として、「秋口まで楽しもうマリンスポーツ」と称した講座を、令和2年9月13日、27日、10月4日、11日、18日の5回にわたって、各半日ずつ実施した。

c. 少年少女海洋スポーツキャンプ (主担当：榮樂・中村・坂口)

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、当初予定(令和2年令和2年7月31日～8月2日・2泊3日)を変更して、令和2年8月25日(火)、26日(水)の2日間、日帰りで実施した。

④ 教員免許更新講習会 (主担当：中村・榮樂・坂口)

バレーボール(午前中)、海洋スポーツ(午後)の時間割で、中学・高等学校教員を対象とした講座を実施した。なお、当初予定日は7月22日であったが、豪雨による当センターが土砂災害の影響を受けたため、延期開催(9月5日)となった。

⑤ マリンフェスタ in かのやへの協力 (主担当：中村・坂口・榮樂)

令和2年7月19日(日)に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、中止となった。

⑥ 大隅青少年自然の家との事業協力

a. 海浜活動安全対策協議会への出席 (中村)

b. 体験の風をおこそう実行委員会への出席 (中村)

c. 大隅青少年自然の家教育事業「海からのメッセージ」への協力(主担当：坂口・中村・榮樂)

錦江湾沿岸の漕破・踏破プログラムに安全管理者として参加(主担当：坂口)

8月12日(水)：海洋スポーツセンターにてマリンスポーツの体験活動(主担当：坂口、中村、榮樂)

⑦ セーリング競技の競技力向上に関する協力

a. 鹿児島県内高校・大学ヨット部による合同練習会を2回開催した(8月中旬、9月中旬)

b. 本学スポーツトレーニング教育研究センターと、海洋スポーツセンターとの連携により、ウインドサーフィン部の競技力向上のため、日本セーリング連盟よりコーチを招聘し、技術指導を行った。

#### 4. その他

- ① 重点プロジェクト事業（その他の戦略的事業経費）：海洋スポーツによる「地域発イノベーションの創出3」および地域連携の充実

他地域にはない充実した意義のあるマリンスポーツ活動の充実を図るために以下のことを実施した。

- a. 安全に関する基礎知識の項を作成し、平成30年度作成のSUP指導マニュアルおよび令和元年度作成のカヌー指導マニュアルとあわせて、ローイングテキスト改訂版を作成した。（主担当：中村）
- b. SUP運動におけるバランスへの効果（論文発表）、筋電図からみたSUP運動の運動特性に関する研究など、SUP運動に関する研究を展開した。
- ② 海洋スポーツセンター協力者会議の開催（主担当：中村・榮樂）
- 実施日：令和2年12月7日（月）
- テーマ：「大隅半島と海洋スポーツ」
- 協力者演題：「大隅半島西海岸の水辺活動・マリンスポーツ振興について」
- 講演者：村山寛光氏（未来観光株式会社 代表取締役）

- ③ 外部団体海洋スポーツ実習の受け入れ

- a. 鹿児島南高等学校海洋スポーツ実習

令和2年が鹿児島国体開催の予定だったため（開催延期）、鹿児島南高等学校の生徒および受け入れ側スタッフの予定が合わず、本年度は中止とした。なお、来年度は3年生を対象に開催を予定している。

- ④ その他の施設利用

- a. あいら子供の家「海洋スポーツ体験」

例年に引き続き、令和2年度も受け入れ予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、中止とした。

### III. 決算報告

#### 1. 教育プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	0 千円	
その他	0 千円	
計	0 千円	

#### 2. 研究プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	0 千円	
その他	0 千円	
計	0 千円	

### 3. 社会連携・社会貢献プロジェクト関係

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	0 千円	
物件費	0 千円	
その他	0 千円	
計	0 千円	

### 4. その他

区分	金額	備考（使用内容）
人件費	21 千円	協力者会議外部協力者謝金
物件費	542 千円	センター管理運営（印刷製本費含）
その他	1,813 千円	協力者会議等旅費・修理・リース・ボンベレンタル等
計	2,376 千円	

## IV. その他

### 1. 発刊物

海洋スポーツ研究第 26 号を発刊した。

### 2. 開催会議状況

協力者会議を令和年 12 月 7 日に開催した（Ⅱ. 事業報告 4 その他一②記載）。

### 3. 広報活動

face book を使った授業・事業実施報告を推進した。

### 4. センター利用促進策の成果

令和 2 年度の利用者総数（のべ人数）は、3,924 名。例年に比較して 1,000 名程度減少したが、これは新型コロナウイルス感染拡大防止や豪雨被害といった、外発的要因の影響と考えられ、そのような社会的情勢の中においては、可能な限りの利用実績があったものと思われる。

### 5. その他

特になし。